



報道機関 各位

熊本大学

**熊本大学主催サイエンスカフェが本格始動
～街中での開催、初の試み～**

この度、熊本大学URAが主催となり、一般市民の方を対象としたサイエンスカフェ（第一回 URA cafe）を下記のとおり実施する運びとなりましたので、一般の方への周知、当日の取材方、よろしくお願いいたします。

記

【開催日】 平成27年2月21日（土）14：00～15：30

【場所】 熊本市現代美術館 「アートルフト」

【演題】 着られる機械（キカイ）・広がる世界（セカイ）

【実施者】

講演者

山川 俊貴 熊本大学 大学院先導機構 助教

藤原 幸一 京都大学 大学院情報学研究科 助教

ファシリテータ

高橋 直美 国立科学博物館認定サイエンスコミュニケーター

【主な内容】

説明タイム

- ・「ウェアラブルデバイス」って何？
- ・着る事が出来ると、どんな良いことがある？
- ・てんかんって何？
- ・てんかん患者の悩みとは？「発作を予測する」とは？
- ・研究プロジェクト発足の経緯
- ・このデバイスで患者の生活はどう変わる？
- ・これからの研究の広がりについて
- ・自分にとって「研究」とは

実演・質問タイム

- ・各テーブルに1名ずつ説明担当者がつきます。
- ・実際に機械を身につけてデモンストレーションしてもらえます。

【企画運営・お問い合わせ先】

熊本大学マーケティング推進部研究推進ユニット
研究コーディネーター（URA）

黒木優太郎 博士（理学）

電話：096-342-3307

e-mail：y-kurogi@jimu.kumamoto-u.ac.jp

企画の趣旨

現在、一般市民の皆様の科学への興味関心が高まっており、研究内容を一般の方へ説明する事へのニーズが高まっています。この事に関して熊本大学はこれまでも公開講座、授業解放や出前講義など、「地域に開かれた大学」として、知的好奇心がくすぐられる学習機会を地域の皆様に提供して参りました。しかし一方では、「大学はどうしても敷居が高い」「研究について知りたいけれど機会が無い」「授業を聞いても難しすぎて理解できない」といった声も良く聞かれます。

そこで今回、本学教員が大学から出て、地域の皆様が普段活用している場所で、授業でも講義でもない「サイエンスカフェ」を本学の URA^{※1}主催で行う事となりました。

サイエンスカフェとは、科学者などの専門家と一般の方々が、コーヒーなどを手に気軽に科学などの話題について自由に語り合う新しいコミュニケーションの場です。従来のシンポジウムやセミナーと異なり、講演者と参加者とが会話の中で素朴な意見や質問を気軽に、自由に交わすことができます。

今回は、ウェアラブルデバイスと呼ばれる装置を用いて「てんかん」の発作予知を行う研究について紹介します。「ウェアラブルデバイスとは何か」から始まり、てんかんの社会的影響、発作予知デバイスがどのように画期的なのか、今後の展開等について、実機を用いたデモンストレーションを通じて一般市民に解りやすく説明します。

また、地域の皆様が参加しやすいように休日の現代美術館で開催し、参加者は4班に分かれて1班につき一人の説明者が付き添いながらデモンストレーションしますので、実際に研究に「触れる」事ができます。

さらに今回は、共同研究者である藤原幸一 京都大学 大学院情報学研究科 助教をゲストとして招き、一つの大きなプロジェクトとして当該研究が進んだ様子や、その過程についても紹介します。

当日のファシリテーションは、国立科学博物館認定のサイエンスコミュニケーター^{※2}が行います。

今回の URA café を通じて、地域の皆様の知的好奇心が満たされると共に、熊本大学の研究がどのように行われているのかを知って頂く機会となればと考えております。

※1 URA：研究コーディネーター（University Research Administrator）。熊本大学では、学内の研究者の研究内容を深く理解し、研究者とともに研究活動を組織として円滑に実施するための業務を行うことが可能な専門的な職員として、研究推進戦略、産学連携を担当する URA が活動しています。

※2 サイエンスコミュニケーター：科学者や技術者と市民とをつなげ、科学と社会の間に双方向のコミュニケーションを生み出す人材。科学技術の魅力や研究活動の実際をよりよく伝え、科学技術のあり方を市民一人ひとりとともに考えていくための新しい方法を研究・実践しています。（日本科学未来館より一部抜粋）